

1 単元名 宮沢賢治が大切にしていることは何だろう

教材「やまなし」「イーハトーブの夢」

2 目標

- 作者の考え方や生き方と重ねて、作品を豊かに読もうとする。
- 「やまなし」の五月と十二月を対比しながら読み取ることを通して描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読む。

3 指導計画（全12時間）

第1次 「やまなし」を読んで、読みの視点をつかむ。（2時間）

第1時 本単元の意味を知り、「やまなし」を読んで特徴やあらすじを確かめ、初発の感想を持つ。

第2時 初発の感想を交流し、「五月」と「十二月」を視点を決めて比べて読むという見通しを持つ。

第2次 二枚の幻灯を比べて読み、味わう。（4時間）

第1時 「五月」の前半をかにの親子の様子や川底の様子に気をつけて読む。

第2時 「五月」の後半をかにの親子、落ちてきた物、川底の様子に気をつけて読む。

第3時 かにの親子の様子や川底の様子という視点で「五月」と「十二月」を比べて読む。

第4時 落ちてきた物という視点で「五月」と「十二月」を比べて読む。（本時）

第3次 賢治が大切にしている考えと作品をつないで読む。（2時間）

第1時 「イーハトーブの夢」を読んで、賢治の理想や生き方について知る。

第2時 「やまなし」の主題を考える。

第4次 宮沢賢治の他の作品を読んで賢治が大切にしていることを見つけて交流する。（4時間）

4 指導上の立場

○教材について

本題材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料「イーハトーブの夢」からなっている。「やまなし」は比喩表現や擬声語・擬態語など独特の表現が駆使された、象徴的で深い思想性を持つ作品だとされる。

「やまなし」は五月と十二月の二枚の幻灯からできている。五月は初夏に入り、明るく活発な季節であるが、幻灯の場面は魚やカワセミの存在がいかにも不気味で、命を一瞬で奪う弱肉強食の世界が表されている。一方、十二月は、草木は枯れ、動物も冬眠する季節だが、幻灯の場面は美しい月光や静寂、やまなしの存在により安らぎと恵みが表されている。この対照的な二枚の幻灯を対比して読むことで、それぞれの幻灯が表すイメージをつかむことができるようにする。そして、資料「イーハトーブの夢」を学習し、生き方や考え方をすることで、宮沢賢治がこの作品に込めたであろうメッセージを自分なりに根拠をもとにまとめられるようにする。

○児童の実態

削除しています。

○研究主題との関わり

研究主題「言葉の力を育てる授業のあり方」に迫るために、「宮沢賢治が大切にしていることを考える」という視点を持って単元を構成することによって、「やまなし」という物語の解釈にとどまらず、さらに深く自分なりの考えを持つことができるようになる。作品のテーマを考えるとという読み方は高学年にとって活発な言語活動に結びついていくと考える。また、「やまなし」では「視点を定めることで対比して読むことができる」ということを児童が経験し、自覚できるようにしていく。そのことを通して「やまなし」の主題に迫ることができ、宮沢賢治の作品に込めた思いに気がつくことができる。と考える。

5 本時案

目 標	「かわせみ」や「やまなし」といった飛び込んでくるものを視点として五月と十二月を、対比しながら読み味わうことができる。	
学 習 活 動	教師の支援と工夫	
1 本時のめあてを持つ。	○ 前時までの学習でまとめたものを黒板に貼り、五月と十二月の情景を振り返る。 ○ 十二月を全員で読む。	
<table border="1" data-bbox="209 846 1241 916"><tr><td data-bbox="209 846 1241 916">めあて 飛び込んでくるもので五月と十二月のちがいをみつけよう。</td></tr></table>		めあて 飛び込んでくるもので五月と十二月のちがいをみつけよう。
めあて 飛び込んでくるもので五月と十二月のちがいをみつけよう。		
2 自分の考えを持つ。	○ 初めにやまなしについて分かることの書き込みをさせる。 ○ 飛びこんでくるものについて、どんな感じがするか言葉での書き込みもするようにさせる。 ○ やまなしについてわかること、感じたこと、カワセミとの違いを発表させる。	
3 自分の考えを発表し、話し合う。	○ 児童と話し合いながら、先の発表内容をもとにやまなしについて表に書き込み、整理していく。その後、飛びこんでくるものに目を向けながら、五月と十二月の違いが分かるように対応していることをつながり棒で結んでいく。 ○ かにがやまなしを食べようとする十二月はなぜ楽しい感じがするのかとこのことを話題にし、命という視点で考える。	
4 本時のまとめをする。	○ めあてに立ち返って、ノートに話し合いから考えたことを書く。 ○ 書きにくい児童には書き出しの主語を例示として伝える。	